

中央中学校
平成30年度
学校通信

ひら

いま拓く

桐生市立中央中学校
平成31年 3月 13日
NO. 31文責：寺島

～卒業する皆さんへの学校通信～

校塔に 鳩多き日や 卒業す

中村草田男



3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この3年間、雨の日も風の日も通い続けた中央中学校に別れを告げる日がやってきたわけですね。中学校の卒業は、単に3年間が終わるということだけではなく、義務教育が終わることも意味します。

今更言うまでもないことですが、義務教育の「義務」は保護者の皆様に向けられた言葉です。子育ては限りなく大きな喜びですが、同時に、限りなく重い責任を伴うものでもあります。ですから、本日、家に帰ったら、その重い責任と3年間向き合ってきた保護者の方にきちんと「ありがとうございました」とお礼を言ってください。それが人としての大切な礼儀です。

さて、皆さんとお別れするに当たり、「卒業と言えばこの俳句」と言われる定番の句をご紹介します。私の大好きな句でもあります。校塔とは言わば校舎のシンボル。校舎の中で一番目立っているところをイメージすれば間違いないでしょう（本校の「校塔」と言える部分を撮影し、上に掲げてみました。大きな時計でも付いていればイメージどおりなのですが…。それに、撮影したとき、残念ながら鳩も飛んでいませんでした）。作者の草田男は、卒業の日鳩が多いと言っていますが、何も卒業式だからといって急に鳩が増えるはずはありません。それを「多き日や」と感動の切れ字をまじえてうたっているのは、いよいよ母校を去る前に、慣れ親しんだ校舎を目に焼き付けようとして、いつもよりじっくり眺めた結果、鳩が飛ぶ姿が印象に残った事情を物語っていると受け取ることができます。じっくり校舎を眺めたのは作者の感傷です。感傷とは物事に感じやすく、すぐに寂しくなったり悲しくなったりする心情を指しますが、人生の節目に当たって感傷を抱くのは、人として当然のことではないでしょうか。節目に立ったときに抱く感傷…つまりは、今日の皆さんと同じ心の状態です。

たくさんの人たちの協力によって迎えた節目の卒業。しばらくは感傷に浸（ひた）り、余韻を楽しんでください。そして、しばらくしたら、再び歩き始めましょう。

さあ、皆さんの3年間の努力によって「いま拓く」新しいステージの始まりです。笑顔浮かべ、胸を張ってしっかりと歩いていってください。お元気で。

(31号に裏面はありません)